

# 大会宣言（案）





# 大会宣言（案）

私たち公立学校難聴・言語障害教育研究協議会(全難言協)並びに北海道言語障害児教育研究協議会(道言協)は、子どもたち一人一人を尊重しながら、豊かな人格の形成、コミュニケーション能力の向上をめざし、ことばやきこえにかかわる療育並びに教育の充実と発展に力を尽くしてきました。現在、全国各地において、その地域の実態に応じた形で、子どもたちやその保護者のニーズに誠実にこたえる活動が様々に展開されています。

乳幼児療育においては、平成二十四年度に国の「障害児通所支援事業」「相談支援事業」が始まりました。北海道は障がい児等支援体制整備事業を通して、市町村を基本とした重層的な地域支援体制の構築を目指しています。

また、学校教育においては、平成二十四年の中教審答申「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」などを受けて、インクルーシブ教育システム構築事業が進められてきました。平成二十九年度は通級担当教員の基礎定数化が始まり、平成三十年度には、高校での通級による指導が始まりました。

私たちはこれまで、「子どもが必要なときに、身近なところで、適切な質の高い教育を、負担がかからずに、自由意志で受けられる教育」をめざしてきました。私たちの療育並びに教育が、社会から信頼され期待されるものとなるよう、理解・啓発に努めるとともに、関係者との連携・協働を一層深めていきます。私たちは、全国各地域における実践を交流し情報を共有しながら、「指導の場の充実」と「指導の質の向上」をめざして取り組んでいきたいと思います。

このたび、関係機関並びに関係当局の絶大なるご支援のもと、全国大会・北海道大会を千歳市で開催し、療育並びに教育の内容について研究討議を行うとともに、地域に根ざした教室のあり方を求めて協議を行うことはきわめて意義深いことです。

ここに、参加された会員の総意を持って決意を表明し、強くその実現を期するものであります。

- 一 難聴・言語障害教育をより一層充実させるため、各種の条件整備の具現化をめざすとともに、教育内容や教育方法の充実に努めます。
- 一 乳幼児療育をより一層充実させるため、各種の条件整備の具現化をめざすとともに、療育の内容や方法の充実に努めます。
- 一 子どもや保護者の強い願いに応えるために、指導者の養成・研修機会の充実をめざすとともに、研究・研修に努めます。
- 一 子どもを取り巻く人々・機関との連携を深め、一層の情報発信と交流に努めます。

右のことを北海道大会・千歳大会において宣言します。

令和四年九月十五日

第五十一回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会  
第五十五回北海道言語障害児教育研究大会 千歳大会



開催要項

記念講演

道言協研究推進の歩み

教室設置と運営の歩み





## 開催要項

### 第51回 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会 北海道大会 第55回 北海道言語障害児教育研究大会 千歳大会

#### 1 目的

言語・聴覚障害児等の教育および療育の充実・発展を図るため、全道各地よりこの教育・療育に携わる関係者が参集し、実践ならびに研究交流を深めるとともに、この教育における諸問題について研究を重ね、解決の方向を求める。

#### 2 研究主題 『ことばを支える「心の育ち」を大切にしたい支援のあり方を考える』

＜研究の柱＞

- 1 その子をどのようにとらえていくか。
- 2 その子にとっての問題をどのようにおさえ、問題の発生と経過をどうとらえるか。
- 3 その子にとっての必要な育ちとは何か。どのようにかかわり、支援するか。
- 4 支援の経過をどのように振り返り、関係する人々とどう情報共有するか。

#### 3 期 日 オンデマンド(YouTube)によるオンデマンド開催

令和4年9月15日(木)～10月15日(金)

#### 4 主 催 全国公立学校難聴・言語障害児教育研究協議会 北海道言語障害児教育研究協議会

#### 5 共 催 千歳市／千歳市教育委員会

#### 6 主 管 北海道言語障害児教育研究協議会石狩ブロック

第55回北海道言語障害児教育研究大会千歳大会運営委員会

#### 7 後 援

文部科学省／厚生労働省／全国都道府県教育委員会連合会／全日本特別支援教育研究連盟／全日本聾教育研究会／全国聾学校長会／全国連合小学校長会／全日本中学校長会／全国国公立幼稚園・子ども園長会／全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会／全国特別支援学校長会／全国特別支援教育推進連盟／全国言語聴覚士協会／独立法人国立特別支援教育総合研究所／日本吃音・流暢性障害学会／関東地区難聴・言語障害教育研究協議会／愛知県言語・聴覚障害児教育研究会／九州地区難聴・言語障害教育研究会／全国情緒障害教育研究会／全国ことばを育む会／全国難聴児を持つ親の会／日本言語障害児教育研究会／北海道教育委員会／石狩管内教育委員会協議会／石狩管内小中学校長会／石狩管内小中学校教頭会／石狩管内特別支援学級設置学校長協会／石狩管内教育研究会／石狩管内特別支援教育振興会／北海道特別支援教育学会／千歳市小中学校長会／千歳市小中学校教頭会／千歳市教育振興会／千歳市社会福祉協議会／北海道言語聴覚士の会／北海道乳幼児療育研究会／北海道通園センター連絡協議会／ことばを育てる親の会北海道協議会／北海道子ども学会／千歳地区ことばを育てる親の会／千歳市児童発達支援センター保護者会「青い鳥」

#### 8 配信内容

＜開会式＞

- |            |                              |      |
|------------|------------------------------|------|
| (1)大会長挨拶   | 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会会長       | 鈴木 聡 |
| (2)副大会長挨拶  | 北海道言語障害児教育研究協議会会長            | 森實啓之 |
| (3)運営委員長挨拶 | 大会運営委員長                      | 渡會朋広 |
| (4)次期開催地挨拶 | 全難言協埼玉大会実行委員会<br>道言協岩見沢大会事務局 |      |

(5)大会宣言採択 北海道言語障害児教育研究協議会副会長 加藤勝宏

<全体会> 北海道言語障害児教育研究協議会 組織部部长 高橋恵理子

<記念講演>

演題 『心とことばの育ちを支えるために私たちができること』

講師 広島大学大学院人間社会科学研究科 川合 紀宗教授

<分科会>(6分科会/臨床研修会)

分科会	ブロック	発表主題・発表主旨	コーディネーター
1	渡島 檜山	主題:同年代とのコミュニケーションに課題があるAさんの事例 要旨:9歳のAさんは、個別活動では、担当者と楽しく関わることができるが、集団生活の中では、コミュニケーションをうまくとることができずに困り感を抱えている。同年代との適切な対人関係を築くためには、どのような支援が必要なのか、ご指導いただきたい。	滑川 典宏先生
2	石狩	主題:吃音のある子どもと母親の支援〜グループ活動を通して〜 要旨:吃音のあるAさん。母親は大きな不安を抱えていた。子どもも親も当事者同士の繋がりをもつことが支援の一つと考え、グループ活動を計画した。子と子、母と母、子と母がグループ活動を通して、吃音に関する諸問題に前向きに捉えようとする事例の紹介。	小野寺 基史先生
3	札幌	主題:気持ちを心地よく表現しづらい吃音があるAさんの事例 要旨:2年生のAさんは、ゆったり遊んでいるかと思えば、命令口調になることもあり、表情や態度がよく変わる印象です。Aさんの捉え方や支援のあり方についてご助言いただきたいと思っております。	牧野 泰美先生
4	札幌	主題:発音の相談に来たけれど、他者との関わり方が心配なY君 要旨:8歳のY君は側音化構音である。興味のあることなら詳しく話せるが、友だちの話をほとんど聞かないため他者との関わり方が気になる。また、視界に入ったものに気を取られ、集中力が続きにくい。今後の支援や手立てについて、御意見をいただきたい。	西田 立郎先生
	十勝	主題:全体発達に課題のあるA君の事例 要旨:3歳の時に発音の不明瞭さや全体的な理解面の幼さ見られたA君。R3年度、小学校に入学してから学習面での伸びが見られるようになった。現在、小学2年のA君をどのように理解し支援したら良いのか、苦慮しているのでご指導いただきたい。	西田 立郎先生
5	留萌 宗谷	主題:Aさんの前向きな学校生活を支える通級指導について 要旨:就学前指導から始まったAさんの通級は5年目。構音指導と併せてコミュニケーション力を高めるために指導を行ってきた。優しいけれどどこか自信のなさそうなAさんを支え、前向きを引き出す通級指導についてご指導いただきたい。	久保山 茂樹先生
6	オホーツク	主題:地域の研究団体や親の会とのより深い連携をめざして 要旨:私の教室では、地域の研究団体や親の会との連携を大切に運営してきた。しかし近年、コロナ禍や様々な事情で連携の難しさを感じるようになった。子どもの成長のために、今後もこれらの機関とより深く連携するにはどうしたらいいのかご意見をいただきたい。	大西 孝志先生

★臨床研修会

講師:平野 直己 先生

内容:「選択性かん黙を抱える子どもとの心理臨床」

選択性かん黙を抱える子どもとの心理臨床に関わる文献の紹介と共に、平野先生ご自身の実践経験から様々なお話をお聞かせいただく予定です。「先生方の実践の一助になれば幸いです。」とのお言葉をいただいております。

9 大会事務局 千歳市立緑小学校言語障害児通級指導教室(ことばの教室)  
(北海道千歳市緑町4丁目4番1号 TEL0123-24-0777 FAX0123-23-4108)

10 大会参加費 1,000円





# 記 念 講 演

## 演 題 講 師

『心とことばの育ちを支えるために私たちができること』

川合 紀宗 先生

広 島 大 学

副理事（キャンパス国際化担当）

大学院人間社会科学研究科附属特別支援教育実践センター長

大学院人間社会科学研究科教育科学専攻

教師教育デザインプログラム・国際教育開発プログラム

## 【学 歴】

1995年3月 広島大学学校教育学部聾学校教員養成課程 卒業

1997年3月 広島大学大学院学校教育研究科修士課程障害児教育専攻 修了

2002年5月 米国コロラド大学ボルダー校大学院音声言語聴覚科学研究科修士  
課程音声言語病理学専攻 修了

2007年8月 米国ネブラスカ大学リンカーン校大学院音声言語病理学・聴能学研  
究科博士課程音声言語病理学専攻 修了

## 【職 歴】

2002 - 2003 米国コロラド州アダムス郡教育局 No.50 言語病理士

2004 - 2007 米国ネブラスカ大学リンカーン校音声言語病理学・聴覚学部および  
音声言語聴覚臨床センター 助手

2007 - 2008 広島大学大学院教育学研究科附属障害児教育実践センター 講師

2008 - 2011 広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター 講師

2011 - 2011 米国ネブラスカ大学リンカーン校音声言語病理学・聴覚学部客員教授

2011 - 2013 広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター准教授

2013 - 2016 広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター 教授

2014 - 2018 広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター長(併任)

2014 - 2016 広島大学大学院国際協力研究科教育文化講座 教授(併任)

2016 - 2020 広島大学学術院(大学院教育学研究科特別支援教育学講座・大学院  
国際協力研究科教育文化講座) 教授

2020 - 現在 広島大学学術院(大学院人間社会科学研究科教育科学専攻教師教育  
デザインプログラム・国際教育開発プログラム) 教授

## 【ご専門】

音声言語病理学，コミュニケーション障害学，特別支援教育学，インクルーシブ教育，ソーシャル・インクルージョン

## 【主な著書】

- ・『新・情報リテラシー教科書』 学術図書出版社 分担執筆 (2011年)
- ・『シリーズきこえとことばの発達と支援：特別支援教育における言語・コミュニケーション・読み書きに困難がある子どもの理解と支援』 学苑社 分担執筆 (2011年)
- ・『シリーズきこえとことばの発達と支援：特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援』 学苑社 編著 (2013年)
- ・『幼児学用語集』 北大路書房 分担執筆 (2013年)
- ・『発達障害医学の進歩 26：発達障害児の幼児期からの支援』 診断と治療社 分担執筆 (2014年)
- ・『言語聴覚療法臨床マニュアル改訂第3版』 協同医書出版社 分担執筆(2014年)
- ・『小児吃音臨床のエッセンス：初回面接のテクニック』 学苑社 分担執筆(2015年)
- ・『キーワードで読む発達障害研究と実践のための医学診断／福祉サービス／特別支援教育／就労支援：福祉・労働制度・脳科学的アプローチ』 福村出版 分担執筆 (2015年)
- ・『インクルーシブ教育ってどんな教育？—インクルージョン・インクルーシブ教育システム—』 学事出版 共著 (2016年)
- ・『特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践』 北大路書房 編著 (2016年)
- ・『地域共生社会の実現とインクルーシブ教育システムの構築：これからの特別支援教育の役割』 あいり出版 編著 (2017年)
- ・『「気になる子ども」と共に学ぶ家庭科：特別な支援に応じた授業づくり』 開隆堂出版 分担執筆 (2017年)
- ・『平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 総則編』 明治図書 分担執筆(2017年)